とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	わらべうた経堂保育園
施設所在地	東京都世田谷桜上水1-7-10クールセリシエ１
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

動の遊びを広げる～ダイナミックな手の遊び

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

発達に個人差の大きい0，1，2歳児の子どもたち。歩く動作が多い中この時期に上半身の動きがきになっている。作業療法士というからだの専門家の意見を加えながら、手を使ったダイナミックな動きの環境を考え、戸外遊びでの影響を園全体で探って考えていく。

２．活動スケジュール

【専門家による観察と目標の設定】
令和7年8月4日　作業療法士の鴨井さんがきて園の子どもの様子を見ていただく。　終了後スタッフと振り返りを行う。次回に繋げていくために必要な玩具を購入する。感覚統合論についてスタッフと話し合う。
➡飛ぶや走るなどは室内での活動の観察でも出来ていることが分かったが、上半身を使った遊びや動きが少ないという気づき。鴨井さんによるアドバイスをもとに室内に大きな積み木を購入して設置。子どもたちがつかんだり、持ち上げたりして上半身を使った遊びをするようになる。

【現場での上半身の活動の展開】
令和7年10月２日　作業療法士の鴨井さんがきて園の子どもの様子を見ていただく。子どもたちの発達について振り返りを行い、次回についてのアドバイスを受ける。
➡遊びを観察してもらったところ上半身の動きがダイナミックになると共に遊び全体がダイナミックになる良い変化ができている。スケートボードにしてみたり、積んでおうちにしてみたり、シーソーみたいにしたり。遊びに広がりが生まれる

室内だけではなく、戸外活動に関する遊びについて保育者から質問。
室内➡戸外活動での遊びの変化やつながりをみつけたり観察を行うようになる

遊具に捕まる、のぼる、など上半身を使った戸外遊びが見られる

【戸外遊びによる専門家の評価と気づき】
令和7年12月4日　作業療法士の鴨井さんがきて園の子どもの様子を見ていただく。
子どもたちの成長の振り返りをして子どもの発達と保育について一緒に考えた。
➡外遊びが展開されるにつれて、子どもたちが走るときにこけたり、よろけたりする様子が見られるくつの選び方、履き方、歩き方についてアドバイスを受ける。園便りを使って、活動の報告や協力の要請を行う。

【園での運動遊びの探究を続ける】
上半身の動きを発展する活動を毎日継続する
靴の履き方を変えることで、子どもたちの歩く活動がスムーズになり、転ぶことが減っていく

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定
（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

主体的に遊びながら上半身が使えるような大型積み木を1，2歳児のクラス内に用意して設置した。
０歳児の関わり遊びの時持ちやすい大きな布、目で追って視野を明確にするライトを用意して活動を行った。

➡体の発達を見てもらうための株式会社ここんの作業療法士（鴨居さん）による巡回指導料
➡見る運動を盛んにするために、大型積み木、ミラーライトを購入
➡バルーン：乳児の上半身の運動（つかむ）のために、大きなバルーンを購入

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

【専門家による観察と目標の設定】
飛ぶ、跳ねる等の下半身の動きを意識した活動しかできていなかった。
作業療法士による観察とアドバイスの結果、上半身を意識した活動

【現場での上半身の活動の展開】
大型積み木を導入することで子どもたちは大きいものをつかんで運んだりするようになり、工夫して遊びをするようになった。

【戸外活動への展開】
専門家による体の動きの観察の結果、様々な遊びができるようになったと評価。
評価を受けて、室内遊びだけではなく、戸外活動にも目を向けることになった。
室内遊びで手や指を使った遊びをするこようになり、上半身の発達が見られるようになった。
戸外活動でも遊具につかまったり、上るようになった。
転んだり、よろけたりが減少する

【園での運動遊びの探究を続ける】
専門家によるアドバイスで靴の選び方や履き方
園便りを使った保護者への協力の呼びかけ
自分たちで公園にいくようになった
専門家の視点をいれることで、子どもたちの動きを見る力や、活動を広げる力が身についていった

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

大型積み木を子どもが毎日目に触れて手に取りやすい位置に置くようになり、三角の積み木に長細い積み木を重ねることに自ら気づき、板状の積み木をスノーボードにみたてたり、三角の積み木を使ってシーソーのように遊んだり
子どもたちが自ら発想する、それに保護者がことばでイメージを返す、子どもたちがそれをきいて、次の活動につながっていくことで、遊びがさらに発展する

靴選び、履き方を園だよりで保護者に共有することで、保護者も靴選びに興味を示すことになり、相談を受けるなど、コミュニケーションが生まれた。

5．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

午前午後共に外活動を取り入れる日課で、自分達では十分体を動かす環境にあると思っていた。作業療法士の先生に活動を評価していただいたところ、上半身の育ちが不十分という気付きをえた。歩くことへの意識はあったが、上半身の動きについては観察が十分でなかったことに気づいた。

上半身に注目して玩具をそろえ、大人が上半身の活動に注目することで、子どもたちの動きがどんどん変わっていった。運動を見る視点が明確になったことで、今まで力を入れてきた歩く活動も、経験量に比較して安定していないことにも気づいた。保育者が運動を観察する目を持つ事の大切さに改めて気づくことになった。

ただ運動に注目するだけでなく、靴や靴の履き方も重要という気付きをいただき、保護者にも共有する機会を作ることで、保護者自身も子どもの運動発達に注目する効果があった。

今年度学んだ子どもの見方を、園の共通知識にして、来年度はさらに園内の運動環境を工夫し、子どもたちの運動発達を探求していきたい。